

「2021年度第2回グリーンチャンネル放送番組審議会」議事の概要

(以下グリーンチャンネルはGCと略す)

1. 日時 2021年12月4日(日) 11:00~12:30
2. 場所 永代ダイヤビル 1F 大会議室
3. 審議委員 (7名)
 - [委員長]
今原照之【元・(公社)日本装蹄協会 会長】
 - [委員]
有吉正徳【(株)朝日新聞社 記者】
石井秀司【元・(一財)GC理事長】
塩田忠【(公財)畜産近代化リース協会 理事】
白川次郎【フリーアナウンサー(元・ラジオNIKKEI社)】
外山みどり【学習院大学 名誉教授】
山田隆雄【元・日本馬匹輸送自動車(株)専務取締役】
4. GC 役職員

| | |
|--------|------|
| 理事長 | 横山清弘 |
| 常務理事 | 清水昌昭 |
| 常務理事 | 鳩山正仁 |
| 編成制作部長 | 片貝裕紀 |
5. 主な議題
 - ① 【報告】 前回審議会の議事回顧およびその後の取組み等
 - ② 【審議】 2021年6月14日~12月4日の放送番組について
 - ③ 【審議】 指定番組について
 - 1) 水曜馬スペ! 『ヨカヨカ物語』(2021年10月20日放送)
 - 2) 水曜馬スペ! 『Go Go! ヨシトミ』(2021年11月3日放送)
6. 議事概要 (次ページより)

議事①：【報告】 前回審議会の議事回顧およびその後の取組み等

GC：2021年第1回放送番組審議会の議事については、2021年6月25日(金)午前10時、GCホームページにその概要を掲載して公表済みです。その後の取組みについては以下の通りです。

I. 視聴者サービス向上への取組み（2021年7月実施済）

- ① 『中央競馬全レース中継/パドック中継』の無料放送について。
 - 1) BS放送において、番組の後半（13:00～17:00）の有料放送を再開した。
 - 2) BS放送において、番組の前半（9:00～13:00）の無料放送を恒久化した。
- ② 視聴料金の引き下げ
 - 1) BS放送の月額視聴料を7月から1,320円（税込）を880円（税込）に引き下げた（別途、スカパー！月額基本料429円（税込）が必要）。
 - 2) WEB（マルチ会員）の月額利用料を9月から1,100円（税込）に引き下げた（スマホ会員は550円据え置き）。
 - 3) CS、CATV、IPTVについても、CATVの一部の事業者を除いて、9月から10月にかけて値下げ（1,100円）を実施した。
- ③ WEBサービスの改善
グリーンチャンネルWEB（マルチ会員）に対して最大5chでの視聴を可能にした。

II. 新型コロナ対応への取組み

- 出演者：リモート収録化をさらに推進し、通常のスタジオ以外の場所も活用。
- スタッフ：打合せ等も含め、必要最小限の人数での制作体制を継続。
- 設備面：空気清浄機、除菌機、アクリルパーティション、換気モニターを設置。
- 物品等：操作ボタン等共用部分を中心に抗ウイルスコーティング等を実施。
- 行動面：出勤前検温、職場でのマスク着用、手洗い、消毒を徹底。入館時・入室時には非接触型検温装置および自動噴霧式の消毒器を意識的に活用。
- 組織面：会議の効率化、親睦行事の凍結、職域ワクチン接種の実施、在宅勤務等。

Ⅲ.放送番組の編成と制作に関する取組み

<継続的に推進>

- 「GC放送番組の編集の基準」の遵守
- 番組宣伝の効果的な実施
- 海外競馬中継および関連番組の充実
- 現場のホースマンに光を当てた放送番組の制作
- 解説者に専門家（引退調教師など）を起用
- 出演者に著名人を起用

<新規の取組>

- GCの放送番組に使える良質の外部コンテンツの調査・発掘

委員：これらの報告を見るに、様々な面で大変であったと思います。その中でこれまでの審議会の場に出た意見等を参考に、これだけ実行していることは評価したいと思います。

GC：コロナ禍という特殊な事情のため、これまでには無かった工夫が必要とされていますが、平常時ならばもっと積極的に出来るはずであるということを忘れずに、引き続きこれらの取り組みを進めてまいります。

委員：了承。

議事②：【審議】2021年6月14日～12月4日の放送番組について

【放送番組の編成と制作に関する議論】

<ホースマンに光を当てた番組制作について>

委員：特定のホースマン（個人）について掘り下げた番組は一般的に少ないので、コアな競馬ファンは喜んでくれると思います。活躍している競走馬を話題にした番組は民放等でも見かけますが、人を取り上げた番組は数少ないので、続けてほしいと思います。また、百科事典的に多くの騎手・調教師を扱った番組があっても良いと思います。手始めに新規の騎手・調教師を扱ってみてはどうでしょう。

GC：取材制限等の条件を勘案しながら、引き続き取り組んでまいります。

<専門家の起用について>

委員：専門家の起用については、番組のレベルアップのためにこれからも推進していただきたいのですが、一つ落とし穴があるので注意してください。というのも、専門家ゆえに不利な部分もあるからです。これは競馬に限ったことではありませんが、専門家というのは自分のパートには詳しいけれども、フリーなトークに慣れているとは限りません。また、現場に対してコメントしづらいことも多いはずで、いきなり、何でも話して良いと言われてしまうと、何を話したら良いか困ってしまう人も少なくないでしょう。なので、出演してもらった専門家には、GC側から要望や指針を明確に伝えてあげると親切だと思います。そうすれば、専門家の力をより引き出すことができるのではないのでしょうか。

委員：話の上手な人を積極的に探す努力も続けた方がいいでしょうね。そういう人材はいるはずと思いますが、こちらから発掘しないとなかなか向こうから集まってくれないものです。

委員：せっかく専門家としての能力が高くても、表現力が足りないと視聴者に伝わる番組になりにくいのですが、最近は表現力も豊かな専門家が増えていますので、チャンスだと思います。

委員：探すことは簡単ではないと思いますが、GCには頑張ってほしいと思います。

GC：引き続き取り組んでまいります。

<著名人の起用について>

委員：予算と出演料の関係も大きいとは思いますが、著名人を起用することで番組のレベルが上がれば視聴者の共感も得られやすいのではないかと思います。意外な著名人が競馬好きであったりすると競馬ファンとしては嬉しいものです。番組を通じていろいろな人と接点をもつことで一般の人たちと競馬とをつなげていければ

理想的であると思います。

GC：引き続き取り組んでまいります。

<畜産番組について>

委員：コロナ禍で様々な家畜のエサの価格が高騰していることなど、タイムリーな情報をニュース的にお伝えすることができれば、興味深い番組ができるのではないかと考えています。

GC：番組自体は中央畜産会の事業ではありますが、引き続き当方の意見として伝えてまいります。

<海外競馬中継について>

委員：ブリーダーズカップというのは凱旋門賞などに比べると国内では意外に大きく取り上げられることは無いのですが、ラヴズオンリーユー号の優勝は素晴らしいことだと思いますよ。海外の競馬を中継で伝えていくというのは、普通のことになっていくのかもしれませんが、身近なところでは野球の大谷選手の活躍など、どの世界にもこういった現象はありますが、競馬もそうなることが大切だと思います。

委員：藤沢和雄調教師がブリーダーズカップを意識したコメントをしていたことを今にして思い出します。

委員：ヨーロッパで主流の追い込み型の競馬とは異なり、アメリカの競馬は左回りの平坦な馬場で整備も行き届いています。これは日本の競馬に似ています。これまでには挑戦する日本の馬が少なかっただけで、勝てる可能性はあるのではないかと、昔から思っていました。

委員：陣営は誘導馬用のポニーまで用意して挑んだと聞いています。取材にも協力的ですので、番組を作る上では良い素材だと思います。

委員：このまま放っておくのはもったいないですよ。

GC：ご意見参考にさせていただきます。

議事③：【審議】指定番組について

1) 水曜馬スぺ！『ヨカヨカ物語』（2021年10月20日放送）

委員：生産者の情熱が特に伝わってくる番組でした。一般の人は、馬というと北海道というイメージが強いと思いますが、ヨカヨカという馬はそれ以外の地域で生産された馬であるからこそその活躍が話題になったと思うので、そういった背景を知らない人に向けた情報、例えば県別の生産頭数なども紹介してあげると、番組の意図がよりわかりやすくなったのではないのでしょうか。

委員：日本の競走馬の産地はだいたい北海道が98%くらいでしょうね。それ以外の地域だと九州、それから東北、もしくは関東の一部でしょうか。

委員：ファンの声とか、生産育成関係者以外の視点も少し入れると番組によりふくらみが出る様に思いました。

委員：サクセスストーリーですので気持ちよく視聴できました。非常に丁寧な取材がなされていたと思います。残念なポイントとしては、なぜJRAの競走に九州産馬限定のレースがあるのか等、背景の説明が足りなかったことです。競馬に詳しい人なら知っている人も多いとは思いますが、放送番組ですのでそのポイントを押さえておけば、よりライトな視聴者にも、このことのすごさを感じてもらえたはずです。

委員：九州地方の競走馬の生産は規模としては大きくありません。しかし小倉競馬場のひまわり賞を目標として、九州地方の生産者と中央競馬には、昔から小さなつながりが続いていることは事実です。

委員：出演者の浅野靖典さんのプロフィールを番組の導入部分でもう少し入れてあげると良かったと思います。GCではおなじみの出演者でも、普段見ていない人にはわかりません。見ていればだんだんとわかってはくるのですが、やはり冒頭で、文字情報で良いから入れるのが良かったのではないかなと思いました。

委員：人（生産者）が中心で、馬（ヨカヨカ号）の画が相対的に少なかったのですが、活躍前の（たとえば仔馬のころの）ヨカヨカ号の映像があるかと言えばちょっと難しいことだと思うので、人が中心の番組になったのは、しかたない部分かもしれませんね。ところで、騎手・調教師の出演は考えなかったのでしょうか。

GC：ご指摘ありがとうございます。騎手・調教師の出演はコロナ禍ということで取材（インタビュー）しにくい事情がありましたので、ご理解いただきたいと思います。

2) 水曜馬スぺ! 『Go Go! ヨシトミ』(2021年11月3日放送)

委員: 55歳の現役騎手に55の質問という切り口はなかなか面白い企画・制作方法だと思いましたよ。

委員: 日頃から接しているスタッフで無ければ話してもらえない様な内容が出てきていたので興味深かったと同時にその手法の可能性を感じた番組でした。

GC: ここまでいろいろ話してもらえるととは思っていませんでした。実際は55問以上聞いており、編集しています。期待以上でした。

委員: 人と人の会話として面白い番組でした。ただ、もう少し方向性が整理されていた方がわかりやすかったかなと感じました。

委員: 様々な角度から柴田善臣という人間が感じられる番組でした。しかし、ただ単に55の質問をぶつただけで終わるのはもったいなかったと思います。もっと掘り下げてもらえば深みが出てきたはずだと思うからです。彼のプロとしての部分、例えば馬の調整に関する考え方、彼は角馬場から1頭1頭、癖などを確認しながら調整していますし、若いころのヤンチャぶりや逸話を踏まえ、人間像をもっとあぶり出してほしかったなと思いました。

委員: 騎手柴田善臣としての全体像は良く伝わったので、彼が今持っている技術論とか、若いころと今の心境の変化などをもう少し掘り下げてほしかったと思います。

委員: 逆の見方もできると思います。そういう正攻法ではなく、そうでない切り口のバラエティーとして気軽に楽しめた番組だったのではないのでしょうか。

委員: そうですね。しかしバラエティーとしてせつかく軽快に(彼も普通のおじさんであるということ)伝えることができたのですから、すごい所も併せて伝えてほしいと思ったのです。今回を1回目として続編を作るという考え方もありますが。

委員: 番組として「バラエティー」と「ドキュメンタリー」のバランスをとることは難しいかもしれませんがね。

GC: 今回はコロナ禍ということで質問形式の番組となったため限界はありました。様々なご意見ありがとうございます。今後の参考とさせていただきます。

GC: 本日の審議会でいただいたご意見・ご指摘は、引き続き今後の番組制作の参考とさせていただきます。本日はありがとうございました。

以上